

内科の石川芳治博士であった。開設された科目は、内科、外科、眼科、皮膚科、産婦人科、小児科、耳鼻科、エックス線科（十月四日より開始）の八科で、医師は二十七名が診療に従事した。

この病院の活動は約八十日間で、十一月二十日に神奈川県に受渡された。この間、約一万人の外来患者、一、二五四人の入院患者の診療を行っている。

沢村院長等の診療報告によると、特種ノ疾患著シク多数ニシテ平時ニオケルモノト明ニソノ趣ヲ異ニシ、震災ニヨル生活状態ノ激変、衣食住ノ欠陥ガ如何ニ人体健康ノ上ニ大ナル影響ヲ及ボセシヤヲ窺ウコトヲ得ベク、好個ノ参考資料トシテ後年ニ伝フベキモノト認メラレル。としてゐる。

特に医師団が注目したのは、今日いうところの「心的外傷後ストレス障害 (PTSD)」に相当する神経衰弱、地震恐怖症等の精神障害の多発であった。

(平成十三年十月例会)

大英図書館のスタイン医薬文書

真柳 誠

連合王国の国家図書館 (The National Library of the United Kingdom) は大英図書館 (The British Library) と呼ばれ、大英博物館 (The British Museum) から一九七三

年に分離した。その壮大な建物は、ネオゴシック建築で有名なロンドンの St. Pancras 駅に隣接して一九九六年に新築されている。当図書館のフロアー3に東方・インド部門 (Oriental and India Office) があり、中近東から極東まで各地域の文献・文書が収蔵・公開されている。

Aurel Stein (一八六二〜一九四三) が西域探検で将来したスタイン文書も当部門に収蔵されるが、その他の漢籍・国書は川瀬一馬・岡崎久司『大英図書館所蔵和漢書総目録』(講談社、一九九六) に載り、概略を知ることができる。しかしスタイン文書はかつて全体の約半数までしか目録に取られておらず、しかもその白黒写真のマイクロフィルムしか公開されていなかったため、これまで隔靴搔痒の感があった。

真柳は二〇〇〇年九月十二・十三日の二日間、大英図書館に訪書する機会を得た。これを機に大英図書館で調査中の中国医史文献研究所の王淑民氏に S. 8289 以降の教示もいただき、医薬に関連する全文書のカラースライド作製を申請し、念願をはたすことができた。

なおスタインの将来した文書は元々、大英博物館に収められていたが、一九七三年の大英図書館分離に伴い移管されている。このスタイン文書は Dr. Lionel Giles が整理して S. 1 から S. 6980 までを一九五七年に目録として出版、さらに一九九二年までに日本・台湾・大陸の研究者により S. 13624 までが目録化された。うち漢文の医薬文書については以下の先行研究がある。

中尾万三「食療本草之考察」『上海自然科学研究所彙報』一卷三号、一九三〇。渡辺幸三「敦煌本食療本草に対する文献学的研究」『日本医史学雑誌』五巻三号・六巻一号、一九五五。宮下三郎「張仲景五藏論について」『漢方の臨床』六巻四号、一九五九。三木栄「スタイン敦煌文書 No. 202 と現伝宋板『傷寒論』弁脈法並びに『金匱玉函經』弁脈との比較 付 No. 5614 & 6345『平脈略例』」『漢方の臨床』六巻五号、一九五九。宮下三郎「敦煌本『張仲景五藏論』校訳注」『東方学報』第三五冊、一九六四。三木栄「西域出土医薬文献総合解説目録」『東洋学報』四七巻一号、一九六四。馬繼興「唐人写給灸法図残卷考」『文物』六期、一九六四(郭靄春主編『中国針灸叢書・第二分冊 現存針灸医籍』、長沙・湖南科学技术出版社、一九八五に転載)。三木栄「西域出土の医薬漢文文献について」『医譚』復刊三五号、一九六七。馬繼興「『食療本草』文献学的研究」、謝海州ら輯『食療本草』所収、北京・人民衛生出版社、一九八四。小曾戸洋「敦煌文書中の医薬文献(その2)」『スタイン文書』『現代東洋医学』七巻三号八七〜九三頁、一九八六(『中国医学古典と日本』第五章、東京・塙書房、一九九六に転載)。馬繼興主編『敦煌古医籍考釈』、南昌・江西科学技术出版社、一九八八。趙健雄「敦煌医粹 敦煌遺書医薬文選校釈」、貴陽・貴州人民出版社、一九八八。王冀青「敦煌唐人写本備急单驗藥方」『中華医史雜誌』二二巻二期、一九九一。叢春雨主編『敦煌中医薬全書』、北京・中医古籍出版社、一九九四。張儂「敦煌『灸經図』残図及古穴的研究」『敦煌研究』二

期、一九九五。張儂「『灸經図』之最叡」『中華医史雜誌』二七巻二期、一九九七。張儂「敦煌『灸經図』簡介」『中華医史雜誌』二七巻三期、一九九七。馬繼興・王淑民ほか「敦煌医薬文献輯校」、南京・江蘇古籍出版社、一九九八。王淑民「敦煌石窟秘藏医方 曾經散失海外的中医古方」、北京・北京医科大学中国協和医科大学聯合出版社、一九九九。叢春雨「敦煌中医薬精華発微」、北京・中医古籍出版社、二〇〇〇。王淑民「敦煌『備急单驗藥方』首次綴輯」『中華医史雜誌』三二巻一期、二〇〇一。

以上の研究は最後の二つを除き、従来知られていた S. 6280 までに基づくものだが、今回の訪書とカラー複写で確認された漢文医薬文書には以下のものがある。

S. 76『食療本草』残卷、葉名・又・又方を朱書。S. 202 原『傷寒論』「弁脈法」残卷。S. 1467R 失名医方書。S. 1467V 失名医方書。S. 2438 道家医方書。S. 3334『備急单驗藥方』残卷(残卷上部が S. 9987A、右下が S. 3336、左下が S. 3337 という形状に綴合する。本書は『本草和名』「医心方」所引の「龍門(百八)方」(隋以前?) および龍門薬方洞碑文(唐代?) と相似し、それらのルーツ系統らしい)。S. 3395『備急单驗藥方』残卷、人相書。S. 4329V 失名医方書。S. 4333 失名房中書。S. 4534『新修本草』残卷(卷十八末尾・卷十九頭部と卷十七(粟条末尾)梅実条途中、S. 9434 と綴合)。S. 5335 失名医方書。S. 5614『張仲景五藏論』三葉 以下『平脈略例』四葉。S. 5737『灸經明堂』残卷。S. 5795 失名辟殺医方書残卷。S. 5901 某僧

乞請某大德賜葉草狀。S. 5968 類本草序例殘卷。S. 6030 陵陽蔡方殘卷、陰陽方術書。S. 6052 失名醫方書。S. 6084 失名醫方書目錄。S. 6168 灸經圖(S. 6262 と綴合す)。S. 6177V 失名醫方書。S. 6245V 『平脈略例』殘卷(S. 6245V・S. 9431V・S. 9443・S. 8289 の順に綴合す)。S. 6262 灸經圖。S. 8289 『平脈略例』脈書。S. 9431V 『平脈略例』殘卷。S. 9434V 『新修本草』卷十七(梅実条) 殘卷(一九九四年に榮新江が『新修本草』殘卷と指摘)。S. 9443 『平脈略例』殘卷。S. 9517 失名醫方書(存三行)。S. 9936 療服石方。S. 9987A 『備急單驗藥方』殘卷。S. 9987B2V 『備急單驗藥方』(卷一) 殘卷。S. 10527V 脈書殘卷。S. 11363V 療服石方。S. 11414 藥方殘片(存一行)。

(平成十三年十一月例会)

※※※※※ 紹 介 ※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

黄 焯 著 柴崎瑛子 訳

『中医伝統流派の系譜』

漢方の臨床を専門としても、過去の学説を、臨床的に地に立って系統的に研究する学問分野のあることを知っている人は少ない。各家学説研究と呼ばれるこの学問分野は、一九五〇年代到北京中医學院教授・任应秋によって確立された。

現在では中国の各中医學院に講座が設けられ、学生たちは第三年次に約八十時間の講義を受ける。

中国においては、この分野に多くの著作がある。特に先の任应秋の著した『中医各家学説』は名著で、その研究の方法論は現在まで引き継がれている。ただ、この書を含め、この分野の著作は日本語に翻訳されていないため、日本では新たな研究者が生まれにくい状況にある。

しかし、ようやくその状況に終止符が打たれることになった。南京中医薬大学教授・黄焯先生の『中医伝統流派の系譜』が翻訳出版されたからである。

漢方医学、すなわち中国伝統医学は、独自の生理論と独自の病理論(病因病機)を持つている。治療は、その病理論に基づいて行われる。現在の日本では、このような形ではなく、現代医学的な病名に基づいて治療が行われることが多い。確かに日本の漢方医学においても、「氣」「血」「水」などの漢方医学用語を用いている。しかし、これらは「実態のあるものではない」(『漢方治療のABC』日本医師会雑誌 Vol. 108, No. 5)という認識であり、本来の中国伝統医学の姿からはほど遠い。では、中国伝統医学の本来の姿とはいったいどういうものなのか。

本書は、長い中国伝統医学の歴史において、十一世紀(宋代)より出現し始めたさまざまな考え方を系統的に分類し、それらの学術的特徴を述べ、代表的人物を紹介して、各流派の全体像を浮かび上がらせることによってそれを明らかにし